

補導員の ひとこえ

第16号

編集
発行

野田市青少年補導員
連絡協議会広報部

事務局 野田市青少年センター
電話 04-7125-2639



ビオトープ活動とビオトープのトンボとスライム
= 関宿中学校提供

ビオトープ整備活動

野田市立関宿中学校

校長 森 功

今年度で創立七十六年目を迎える本校ですが、平成一八年以降は一学年一学級で、現在、全校生徒六三名で活動しています。

生徒は小・中の九年間を通じて同じ学級で過ごしており、多様な学習活動や体験活動を実施するためには関宿小学校や地域の方々との連携は欠かせないものとなっております。

生徒たちは、日頃から地域の方々に支えられ、様々な体験をさせていただいておりますが、中でも現三年生は小学校五年生の頃から五年余り、関宿水環境保全会の皆様のご指導、ご協力のもとビオトープの整備に

取り組んできました。

整備を始めた頃はゴミも多く、生き物といえば外来種であるアメリカザリガニばかりだったようですが、今では水の流れや植生も整えられ、ゴミもなくなり、生息する生物も多様化してきております。

生徒たちはこのような活動を通して自然環境について考えるだけでなく、自分たちなりの地域貢献も考えるきっかけとすることができました。

今後も地域の方々、小学校との連携を密にしながら「社会に貢献しよう」と生き生きと活動する生徒の育成に向かってまいります。

ゲーム・ネット依存注意

大人の対応ポイントとは

近年、スマートフォンでゲームやSNS利用、動画も視聴等、スマートフォンでできることが増えています。また、パソコンも同様に様々な場面で使用されています。スマートフォンやパソコンは今や私たちにとって必要

不可欠なものであり、生活の中の多くの時間を共にしています。そのような中で昨今問題になっているのが、子どもの「ゲーム・ネットへの依存」です。ゲームやネットに長時間没入することが続くと、寝不足や昼夜逆転、心

身の疲労といった影響が出て、学業やその他の活動に力が入らなくなってしまう。大人になると「今日はこの辺にしておこう」といったように自分をコントロールすることが容易ですが、子どもはコントロールの力が

発展途上です。また、思春期の子どもの様々な葛藤に直面し、自分なりのストレス対処方

法としてゲームをすることを選び、そのままやめられなくなってしまう（長時間没入してしまう）というケースもあります。

このような若年層の問題を解決していくためには、まわりの大人の協力が必要です。大人の対応のポイントとして左上の項目が挙げられます。

ゲーム・ネット依存対策ポイント

●ゲーム以外の活動をする

ゲームを減らそうとするのではなく、ゲーム以外の活動を増やすことが大切です。子どもが新しいことに取り組んだら変化を認め、ほめることを忘れないようにしましょう。

●子どものSOSをキャッチする

ゲーム・ネットへの依存の背景に、いじめや友人トラブル等、悩みやつらさを抱えている場合が多いです。叱るよりもまずは子どもの様子に関心を寄せ、話に耳を傾けてみるのが大切です。

●穏やかに話す

子どもにあれこれ指示したり行動を監視するのではなく、心配をしているという「気持ち」を穏やかに伝えることが大切です。

●問題を抱え込まない

問題解決の方法が分からなくなった時には問題を抱え込まず、子育て支援や発達障害の支援、ひきこもり支援等の相談窓口を利用することも大切です。

ゲームやその他の心の健康相談電話→千葉県子ども・若者総合相談センター「ライトハウス」
電話相談 043-420-8066 (匿名可能)
相談受付 火曜～日曜 10:00～17:00

パトロールと声かけで

子どもの安全を守る

千葉県内の青少年補導員が毎年夏に「県下

一斉合同パトロール」を行っています。

野田市では7月29日

(金)に、中央1、中央II、南部、福田の各ブロックの補導員21名が、市役所前からイオンノア店をパトロールしました。啓発物資(マスク)を配布し、補導員活動

のPRも行いました。川間と北部ブロックは七光台のイオンタウンを12名で、木間ヶ瀬二川・関宿ブロックも16名が関宿中央ターミナル周辺を、いずれも午後7時からパトロールしました。このようなパトロール活動を通して、子どもたちが安全に生活していけるような野田市にするため、引き続き青少年の見守りを行っていきます。



青少年補導員とは

野田市の青少年補導員の総数は118名。市内各小中高の学校からPTA推せん2名、教員1名、及び各中学校区から青少年相談員が1名という構成です。市内を9ブロックに分けて活動と

野田市の青少年補導員との交流をしています。また、青少年センターを事務局として、講演会、研修会などの啓発活